

修了後の進路

本課程を通じて、情報学の深い知識と確かな技術に加えて、地域でのプロジェクト実践で養った広い視野と高い遂行力・課題解決力を備えた「地域に根ざし世界を視野に活躍できるグローバル情報人材」として、北近畿地域はもちろん国内外での活躍が期待されます。

就職

情報関連企業の他、公務(国、地方自治体)、製造、金融、運輸、流通など情報人材を必要とするあらゆる業種



起業

実践的プロジェクト活動の展開や福知山市と連携したスタートアップ支援などを通じて新しいビジネスモデルや新産業を創造する起業人として活躍



進学

国内外の大学院
博士後期課程への進学



入試概要・授業料等

- 〔募集人員〕 20名
〔出願期間〕 第1期:5月27日(月)~5月31日(金)
第2期:9月9日(月)~9月13日(金)
〔試験日〕 第1期:6月22日(土)
第2期:9月28日(土)
〔選抜方法〕 口頭試問と面接で合否判定します。
面接では、研究計画書の内容についても問います。

- 〔入 学 料〕 282,000円
※福知山公立大学の卒業者は
入学金が免除されます。
〔授 業 料〕 前期分 267,900円
後期分 267,900円
〔実践教育実習費等〕 前期分 20,000円
後期分 20,000円

校舎



大学院用キャンパスとして、2号館を一部改修、5号館を新たに竣工しました。
学習環境の一層の充実を狙い、研究やゼミの設備が拡充されます。

福知山へのアクセス



- JR京都駅→福知山駅 最短75分
- 大阪なんば→福知山駅 107分(高速バス)
- JR大阪駅→福知山駅 最短91分
- 神戸三宮→福知山駅 90分(高速バス)

大学院案内2025

地を究め 知を創る



福知山公立大学

大学院地域情報学研究科
地域情報学専攻 修士課程

2024年4月開設





地域情報学研究科長

倉本 到 教授

大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程を修了後、2001年、国立大学法人京都工芸繊維大学助手。同大学助教、准教授を経て、2017年大阪大学基礎工学部特任准教授、2019年より本情報学部教授に着任。コンピュータの持つ能力を人間の豊かさの拡大に利用することをめざし、ロボット・対話エージェントと人間との関係性を構築する技術や、コンピュータが人間を楽しませる・心地よく感じさせる・気持ちよく活動させるための技術の開発と評価を行っている。

地域社会での「実践」を見据えて 情報技術に基づく課題解決をめざす

大学院地域情報学研究科の特徴

2024年4月に開設した大学院地域情報学研究科は、情報学部・地域経営学部の研究を深化させ、情報学を基盤とした地域課題の解決をめざしています。理論研究にとどまらず、研究成果を社会実装し、地域に還元することも大きな目的です。地域に密着した研究活動を通じて新しい知見を得るとともに、その知識を地域での活動を通じて還元することをめざします。

地域は大都市と比べて、さまざまな課題が社会に直結しやすいという特徴があります。しかも、地域の方々の解決に向けたエネルギーも強く、対話がしやすい環境でもあります。本研究科ではこれらの特徴を活かし、情報学に基づいた実践に役立つ新しい知見を得ることに加えて、具体的な価値を生み出すことも到達点のひとつと考えています。その実現のために、学生は1年次から地域をフィールドとして活動することにより、地域に密着した課題を発見し、2年次からは自らが設定した課題の解決のための研究・プロジェクトの実践

をめざします。そして、発見された課題やニーズを情報技術を駆使して実践的に解決できる人材として巣立ってゆける環境が整っています。

北近畿地域の大学院としてめざすこと

本学は北近畿エリア唯一の大学院であり、学部以上の高度な研究と教育を提供し、地域のステークホルダーを結んで新たな価値を生む学術拠点をめざしています。理工系の学生でなくても、基礎的な情報学の知識とリテラシーレベルがあれば入学が可能で、リメディアル教育の枠組みも整備されています。学生の学びたい思いを支援するべく、費用面でもサポートを提供しています。また、地元企業からの高等教育提供の要望に応えるべく、社会人向けのカリキュラム編成も進行中です。地域の未来、日本の将来を良いものにしたいみなさまの入学をお待ちしています。

大学院地域情報学研究科 地域情報学専攻（修士課程）

学位 修士(情報学)/修士(学術)



大学院紹介はこちら

Feature 1 地域と共に成長する大学院

地域に根ざした教育・研究の「2本の柱」

福知山公立大学大学院地域情報学研究科は、その名の示す通り、情報学の深化をめざす研究開発に加え、その成果を地域に根ざした実践活動に適用することをめざします。そこで、当研究科では、社会科学をはじめ幅広い領域の知見を含む「2本の柱」とも呼べる教育研究のアプローチを実現します。

地域社会に貢献する 情報学の深化と研究開発

先進的な情報技術や理論をさらに深化させ、情報学の新しい知を創造する研究活動に取り組みます。

情報学による地域に根ざした 実践的プロジェクトの遂行

地域社会の課題解決に向けたプロジェクトを展開し、情報学を中心とした技術体系を社会に実装するための実践活動に取り組みます。

Feature 2 実践的プロジェクトの成果による学位認定

大学院では、学術研究による学位[修士(情報学)]だけでなく、地域での起業・共同開発事業等により、研究科での活動の成果を地域社会に実際に還元するための活動を通じて学位[修士(学術)]を認定するプログラムを有しています。地域とともに歩む大学院として、地域の諸課題を高度な技術・知識をもって解決することは大学院の目的のひとつです。情報学領域に関するより高度な専門知識を修得すると共に、情報学の各分野の研究成果を通じて、持続可能な地域社会の発展に寄与することができる課題探求と問題解決能力を身につけた者に対し、学位を認定します。

実践活動の体制

附属機関・センターとの連携

地域に根ざした活動や実践的な活動を行うためには、各センターや地域との連携が欠かせません。本学の附属機関である各センターと連携し、発展的な課題解決をめざします。

地域防災 研究センター

地域防災に関するプロジェクトや研究活動に関する実践



国際 センター

国際交流に関する活動



数理・データ サイエンスセンター

データサイエンスに関する研究等



地域組織との連携

このような地域を巻き込んだ実践的プロジェクト・研究活動においては、福知山市をはじめ、周辺の北近畿地域との協働が欠かせません。本研究科では、北近畿地域の企業を含む国内外の企業との共同研究を積極的に推進し、問題解決を実現することをめざします。

また、これらの地域との産学連携を進展させるため、本学北近畿地域連携機構との連携を密にし、地域の発展や持続的進展の可能性を秘めた産業界・NPO等の地域組織と連携を効率的に図ること、地域課題の解決などをめざします。

北近畿地域連携機構 Kita-re

北近畿の自治体・産業界、地域組織との連携





アドミッションポリシー

求める人材像

修士課程では、地域社会に関心をもち、情報学の成果の社会実装もしくは情報学の深化に意欲があり、主体的かつ能動的に学ぶことが期待できる志願者を広く受け入れる。

入学前に修得しているべき知識と能力

修士課程への入学を希望する学生は、入学前において、以下の知識と能力を有することが望ましい。

情報学の体系に関する知識を有すること	地域社会の人材を含む多様な人材とのコミュニケーション力を有すること
情報社会で活躍するために必要なリテラシーと倫理観を有すること	プログラミングの基本技能を修得していること
現実社会における現象に関心があり、その抽象化の技能を修得していること	

入学者選抜の方針

修士課程では、上記の人材像に合致し、入学前に修得しているべき知識と能力を入学時に修得していると期待される志願者を広く受け入れる。



大学院での学び

カリキュラム構成

研究科では、情報学の先導的研究を旨とする「情報学研究コース」と、情報技術による地域貢献を実践することを旨とする「地域情報プロジェクトコース」の2つのコースがあります。

修士1年次では、情報学の学術的深化を学ぶための科目と、社会実践活動のための基礎知識を習得するための科目が配置され、情報技術による地域社会への貢献を実現するための素養を身につけることができます。さらに、修士学位をめざすためのプロジェクト・研究の調査(主に北近畿地域におけるフィールド調査)を行う実習科目を配置します。

これらの成果を踏まえて、修士2年次のコース選択時に、情報学研究コース、

地域情報プロジェクトコースのいずれかのプロセスに軸足を定め、それらの実現・深化のための活動を行います。

情報学と地域実践の双方の知見がプロジェクト・研究に必要であることから、学生指導はその内容に合わせて、主指導教員と副指導教員の2名指導体制を基本としています。また、地域とプロジェクトの特性に鑑み、指導教員に加えて指導補助者によるプロジェクト・研究に対する支援を受けることができます。

なお、社会人の学び直しと学位取得を支援するため、在職したまま受講可能な社会人向け履修プログラム、および社会人特別選抜についても検討しています。



修了要件

科目区分	必修	選択	合計	授業科目
(1)研究・プロジェクト科目	4単位	12単位	16単位	地域情報プロジェクト演習I、地域情報プロジェクト演習II、地域情報学特別研究I、地域情報学特別研究II、地域情報プロジェクト実践I、地域情報プロジェクト実践II、インターンシップ
(2)情報学科目	—	6単位	6単位	離散数学特論、応用解析学特論、ハイブリッドダイナミカルシステム、集積システム設計特論、IoTシステムハードウェア、実証的ソフトウェア工学、人間情報技術特論、マルチモーダルインタラクション特論、計算知能特論、環境情報技術特論、医用画像解析特論、時系列メディア論
(3)文理融合科目	—	4単位	4単位	地域情報学特別講義I、地域情報学特別講義II、感性情報データ処理特論、サービスエンジニアリング特論、ベンチャー・アントレプレナーシップ論、実践的調査法、地域医療情報システム論
(4)社会科学系科目	—	—	—	地域福祉政策論、公共ガバナンス論、経営学特論、国際文化論
上記科目区分(1)~(4)の中から自由に選択			4単位	
修了要件 単位数			30単位	

※情報学研究コースの学生は「地域情報学特別研究I」「地域情報学特別研究II」、地域情報プロジェクトコースの学生は「地域情報プロジェクト実践I」「地域情報プロジェクト実践II」をそれぞれ研究・プロジェクト科目より修得すること。

研究テーマ例

修士課程で実際に取り組むテーマは、地域課題を扱う実践的なプロジェクトから情報学研究までさまざまなものが想定されます。

福祉とロボット 地域福祉活動にAI・ロボットを実践的に導入することに関する研究、中山間地域における遠隔ロボットによる福祉活動の実現、遠隔ロボット・AIによる福祉活動/プランニングに関する相談・支援などを実現	学びの場のDX 教育現場における情報化の推進、タブレット学習のログ分析などデータ活用、さらにこれらの導入プロセスの検討と支援など、北近畿地域の小中学校と協働する実践的な研究活動を実施	公共・観光のスマート化 観光や防災、あるいはMaaSなどの分野における人流計測および人流データの解析を通じて、地域特性に応じたサービスの設計、実装に適する基礎データ解析などを実現	地域防災×ICT 地域コミュニティの自然災害に対する防災・減災行動とICTを活用した地域の特性を踏まえた観測網の構築や被害予測さらに、避難スイッチとしての情報提供の融合をはかる実践的地域防災研究	AI・データサイエンス 科学的機序やデータサイエンスに基づくシステムの研究開発、数理的手法を現代社会における諸問題の解決に適用するための基礎研究および応用研究などを実施
--	--	--	--	---

教員一覧

教授 池野 英利 IKENO, Hidetoshi 主な科目 環境情報技術特論 専門分野 ニューロインフォマティクス、 生体情報工学、計測工学 現在の研究テーマ ■ミツバチダンスコミュニケーションに関わる脳・神経機構の解析 ■地中レーザ計測による樹木根系構造の解析 ■地中イメージスキャナによる樹木根根の成長、枯死過程の解析 ■カシノナガキクイシの飛翔行動特性とナラ枯れ範囲拡大の関連 ■トビムシ個体数の自動カウントシステムの開発	教授 井上 直樹 INOUE, Naoki 主な科目 公共ガバナンス論 専門分野 会計学、監査論、公会計、公監査、公共経営 現在の研究テーマ ■公共部門におけるマネジメントとガバナンスの機能強化を企図した監査の研究 ■執行機関からガバナンス機関に対する情報提供のあり方についての研究 ほか	教授 岡本 悦司 OKAMOTO, Etsuji 主な科目 地域医療情報システム論 専門分野 医学、公衆衛生学、医療情報 現在の研究テーマ ■医療機関が出す医療費データを地域住民の健康増進に活用する ■糖尿病の重症化を予防して透析なしで生きていける社会の実現 ■老後も地域に住み続けられる地域包括ケア体制の構築 ■データウェアハウスによる地域分析	准教授 橋本 光代 HASHIDA, Mitsuyo 主な科目 時系列メディア論 専門分野 音楽一般、音楽情報科学 現在の研究テーマ ■演奏表情付け・演奏デザイン支援システムの開発 ■音楽演奏表情データベースの構築 ■「心の動かし方」分析とアーカイブス	教授 畠中 利治 HATANAKA, Toshiharu 主な科目 計算知能特論 専門分野 計算知能、データサイエンス、制御工学 現在の研究テーマ ■進化計算のアルゴリズムに関する研究 ■データ駆動型の学習状況のモデル化に関する研究 ■システムの状態推定法の研究	准教授 畠中 理英 HATANAKA, Masahide 主な科目 集積システム設計特論 専門分野 無線通信、信号処理 現在の研究テーマ ■高速・高効率無線伝送システムの実装に関する研究 ■ソフトウェア無線に関する研究 ■屋内高精度位置推定技術に関する研究
教授 亀井 省吾 KAMEI, Shogo 主な科目 ベンチャー・アントレプレナーシップ論 専門分野 経営戦略、イノベーション経営、 ベンチャー企業論 現在の研究テーマ ■情報社会における企業組織の持続的成長 ■組織間ネットワーク・ダイナミクス ■集团的課題解決における集合知発揮要因 ■共同開発現場における身体知転移プロセス	教授 川島 典子 KAWASHIMA, Noriko 主な科目 地域福祉政策論 専門分野 社会福祉、地域福祉、ジェンダー 現在の研究テーマ ■介護予防 ■子育て支援 ■ソーシャル・キャピタル ■北欧研究(特に、フィンランド・ノルウェー・デンマーク) ■ジェンダー ■中山間地域政策研究 ■福祉専門職業員のAI化とロボットによる代行	准教授 衣川 昌宏 KINUGAWA, Masahiro 主な科目 IoTシステムハードウェア 専門分野 情報セキュリティ、環境電磁工学、 電磁情報セキュリティ、 ハードウェアセキュリティ、 情報通信ネットワーク、電子工学、計測工学 現在の研究テーマ ■電磁情報セキュリティ ■環境電磁工学 ■情報セキュリティ	講師 前田 一貴 MAEDA, Kazuki 主な科目 応用解析学特論 専門分野 応用数学、離散可積分系、数値解析 現在の研究テーマ ■直交関数系に付随して現れる離散可積分系の理論・応用 ■箱玉系をはじめとする超離散可積分系の研究	教授 松山 江里 MATSUYAMA, Eri 主な科目 医用画像解析特論 専門分野 知覚情報処理、知能情報学、放射線科学 現在の研究テーマ ■情報理論に基づく放射線画像の画像解析に関する研究 ■wavelet変換による画像処理に関する研究 ■深層学習を用いた医用画像の病変検出・判別に関する研究	講師 眞鍋 雄貴 MANABE, Yuki 主な科目 実証的ソフトウェア工学 専門分野 ソフトウェア工学 現在の研究テーマ ■大規模ソフトウェア集合の分析に基づくソフトウェア開発支援 ■ソフトウェア開発履歴の分析に基づくソフトウェア開発支援
教授 倉本 到 KURAMOTO, Itaru 主な科目 人間情報技術特論 専門分野 エンタテインメントコンピューティング(EC)、 ヒューマンエージェント/ ロボットインタラクション(HAI/HRI)、 ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI) 現在の研究テーマ ■ロボットによる「おもてなし」感に代表される感性的価値の提供 ■日常生活環境の意欲を維持向上するゲーミフィケーション ■擬人化エージェントのデザインと対話円滑化との関係	教授 黄 宏軒 IKO, Hironori (HUANG, Hong-Hsuan) 主な科目 マルチモーダルインタラクション特論 専門分野 人工知能、ヒューマンインタフェース、 コミュニケーション科学 現在の研究テーマ ■グループ会話におけるコミュニケーション能力向上の支援 ■教員志望者の指導訓練のための仮想学級システム ■非母語話者のコミュニケーション支援 ■高齢者のための擬人化傾聴エージェント ■機械学習、特に深層学習による人間のマルチモーダル状態・行動推定と会話エージェント対話ロボットのマルチモーダル行動生成 ■その他の人工知能、機械学習技術による問題解決	教授 渋谷 節子 SHIBUYA, Setsuko 主な科目 国際文化論 専門分野 文化人類学、東南アジアの社会と文化、 異文化理解 現在の研究テーマ ■異文化理解 ■地域社会と多様性 ■近代アジアの社会文化と文化変容	教授 森 禎弘 MORI, Yoshihiro 主な科目 ハイブリッドダイナミカルシステム 専門分野 制御工学、システム工学 現在の研究テーマ ■制御系の解析・設計法の開発 ■細胞内化学反応系の解析・設計法の開発 ■リアル現象の解析法の開発 ■シミュレーションによる高速道路の交通流の解析と渋滞緩和法の開発	教授 山本 吉伸 YAMAMOTO, Yoshinobu 主な科目 サービスエンジニアリング特論 専門分野 認知科学、サービス工学、計算機科学、 ヒューマンインタフェース 現在の研究テーマ ■地域を活性化するICT ■サービス生産性を向上する小売サービス ■従業員中心のサービス業プラットフォーム	准教授 渡邊 扇之介 WATANABE, Sennosuke 主な科目 離散数学特論 専門分野 離散数学 現在の研究テーマ ■グラフ最適化問題の数学的構造の解明 ■Max-plus代数の基礎理論の構築と応用 ■超離散可積分系の数理解の解明 ■セルオートマトンを用いた理論の構築と応用
教授 鄭 年皓 JUNG, Nyunho 主な科目 経営学特論 専門分野 経営科学、経営管理論 現在の研究テーマ ■新製品開発とその組織 ■組織活性化 ■組織におけるコミュニケーション・ネットワーク ■技術革新と組織変革を中心としたイノベーション ■モノづくりとSCM(Supply Chain Management)を中心とした組織間関係 ■経営情報学的ネットワーク	准教授 大門 大朗 DAIMON, Hiroaki 主な科目 実践的社会調査法 専門分野 社会心理学、グループ・ダイナミクス 現在の研究テーマ ■災害直後から復興期の利他的行動(ボランティア等)に関する実践的研究 ■防災意識・行動のパラドックスと防災環境の構築に関する研究 ■災害・被災経験が地域社会にもたらす集会的トラウマに関する研究	准教授 崔 童殷 CHOI, Dongeun 主な科目 感性情報データ処理特論 専門分野 情報工学、人間工学、感性情報工学、 デザイン工学、生活科学 現在の研究テーマ ■デジタルファッションシステム構築のための研究 ■地域の伝統文化の継承のためのデジタルアーカイブとデータベース化開発 ■人間の感覚・感性情報データ処理に関する研究 ■高齢社会のための福祉工学 ■地域社会の問題のデータ調査や解決のためのICT技術の応用研究	研究指導教員の詳細な情報はこちらのHPから 		